鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴信

第６９号　Ｈ２４．２．２９

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目１番１号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

３月の行事予定

３	月		
1	木	第６３回卒業式	
2	金		
3	㊏		
4	㊐		
5	月	全校朝会　入学学力検査場設営	
6	火	入学学力検査 生徒自宅学習期間（～3/12）	生徒自宅学習期間
7	水	入学学力検査	
8	木	国公立大学中期日程試験(3/8～)	
9	金		
10	㊏	悠学講座⑫	
11	㊐		
12	月	第11回職員会議 国公立大学後期日程試験(3/12～)	自宅学習
13	火	学校安全の日 スクールカウンセリング	
14	水	合格者発表	
15	木	合格者集合	
16	金	第12回職員会議	
17	㊏		
18	㊐		
19	月	学年朝会　防犯教室	
20	㊋	春分の日	
21	水	職員研修	
22	木		
23	金	終業式　大掃除	
24	㊏		
25	㊐		
26	月	第13回職員会議	年度末休業日
27	火		
28	水	離任式 合格体験を聞く会	
29	木		
30	金		
31	㊏		

鶴丸生への期待

教頭　山之内　伸明

日本はいま、強い閉塞感の中にある。そして先進国も、多くの困難な問題に直面している。現代のグローバル資本主義は、国際金融危機（リーマン・ショックやユーロ危機）を恒常的に発生させ、世界経済を混乱に陥れ続けている。先進国の多くの国で貧困層が大量に発生し、所得格差が拡大している。ニューヨークウォール街では、「99％対１％デモ」といわれる高い失業率や格差拡大に抗議するデモが頻発している。そして「原発事故」や「温暖化」にみられる地球環境の汚染・破壊は深刻である。昨年末の南アフリカのダーバン会議でも先進国と途上国の利害が対立し、温暖化防止の合意は得られなかった。

今年の１月末に開催された「ダボス会議」（政財界のリーダーが集う世界経済フォーラム年次総会）でも、結局「ユーロ危機」に対する有効策は打ち出せなかった。グローバル資本主義の構造的な問題についての議論もみられた。資本主義社会においては、一人一人は私利私欲に従い利潤が最大になるように努めればよい。市場（神の見えざる手）に任せれば全体の調和がとれ、社会全体は豊かに発展していくというものだった。しかし、市場による調和はコントロールが効かなくなっている。確かに資本主義は豊かさをもたらしたが、人々は「市場での競争に勝つこと」に汲々とし、欲望は肥大化し利己主義が蔓延している。

日本は、グローバル資本主義国が抱える根源的欠陥の中で、千年に一度と言われる東日本大震災が発生し、さらに福島原発事故を招いてしまった。時の首相は「国難」という言葉を使い「日本の復興・再生」に立ち上がろうと訴えた。植民地の危機に直面した幕末、そして太平洋戦争と日本はまさしく幾度となく「国難」から立ち上がってきた。津波ですべてを失ったある老舗の若社長は、会社をつぶさないことを直ちに宣言し、全従業員を呼び寄せ会社の再建と従業員の生活再建を誓った。さらに若い二人を採用したのである。自己本位の会社再建だけであれば、規模を縮小すべくリストラが当然である。東北の人々は大震災を従容として受けとめ、家族や地域そして職場の「絆」をもとに歯をくいしばって生活再建に立ち向かっている。東北の人々の穏やかで「共に生きる」生き様に敬服せざるを得ない。この大震災をとおして、人間がコントロールできない「原子力」の恐ろしさ、市場経済のなかで「金銭至上主義」「効率優先」「利益優先」になっていなかったか、人とのつながりや人に寄り添う「絆」文化そのものを忘れていなかったか、など様々な事を考えさせてくれた。

「絆」は言うまでもなく日本文化である。もともと日本は「和」の社会である。征服したり征服されたりする社会（西欧社会）とは異なり、農耕民族としてみんなと共に生きる社会を築いてきた。人との結びつき、隣近所との付き合いを大切にしてきたのである。「騙されるなら騙す人間になれ」ではなく「騙すよりも騙されるくらいがよい」と考え、目先の利益よりも長期的な人間関係を大事にしてきた。商売においても近江商人の「三方よし」（売り手よし，買い手よし，世間よし）の理念が賞賛された。日本は互いの信頼関係をなによりも重視する文化である。いい加減なモノづくりは許されず、長期の信頼と丁寧なモノづくりが日本の競争力を高めてきたのである。

話は変わるが、４月当初の対面式で時の生徒会長は新入生に次のように述べた。東日本大震災にふれて、自分自身も日本の復興・再生に貢献したい、人の為になれる人間になりたいと思っていると述べ、「鶴丸で学びを究めてください。学びを究めることで自分の関心や適性を知り、社会との接点を見つけて欲しい」と激励し、鶴丸の「For Others」を説いた。私は彼女の見識に感服すると同時に、大きく頷いたことを思い出す。

たくさんの政治家を輩出している「松下政経塾」の開塾の時（昭和55年）、たくさんの応募の中から選ばれた塾生に塾長松下幸之助は必ずや日本を担って立つために、明日からしっかりと努力して欲しいことがある。・・・・朝、早う起きてしっかり掃除してくれ」と言った。気概に満ちた塾生は、なぜ掃除なのと呆然としたという。塾長は何を言おうとしたのだろう。また、日本のグローバル企業における最優秀幹部を集めた人材育成の「不識塾」では、歴史や哲学、文化、芸術、宗教などのリベラル・アーツ（教養）教育に力を入れているという。グローバルな場において尊敬される経営者になる為には、確固たる歴史観と大局観を養い、自国のことを深く学ぶリベラル・アーツ教育が不可欠だと言うのである。

高い志をもって勉強に部活動に励んでいる鶴丸生、グローバル社会を生きるツールとしての英語力はもちろん、もっと日本の歴史や文化に眼を向けて欲しい。鶴丸はリーダーを育てるところである。いまこそ真のリーダーが求められている。それは「For Others」の精神をもった、社会の混迷を切り開く気概をもったリーダーである。鶴丸の三年間で人間を磨こうと決意して欲しい。「朝、早う起きてしっかり掃除」して欲しい。そして、学びを究めて欲しい。しっかりした物の考え方・教養を身につけなければ，圧倒的な大局観や総合判断力は身につかない。変革者は常に若者・新人である。授業の様子を廊下から伺う私にも気付かず集中している鶴丸生，元気に挨拶をしてくれる鶴丸生に，自分を生かすことで社会に貢献できる人材として，日本の復興・再生につながる「文明の転換」を主導して欲しいと期待してしまうのである。

１・２年生 進路講演会

２月10日（金）の７限、東京大学副学長でいらっしゃる佐藤慎一先生をお招きして、１・２年生を対象に進路講演会が開かれた。

先生は、「大学で成功するために」という演題で、受験勉強と大学における学びの違い、現在の日本が抱えている課題をどう捉え解決すべきか、個人としてどうあるべきか、さらには、東京大学が求める高校生像等々について、豊富な経験と話題によって話してくださった。先生は、大学における学びの特徴として、

・問題は、与えられるものではなく、自分で作るものであるということ

・問題には、唯一の正解などは存在しないということ

・唯一の正解を誰かが知っていて教えてくれることはないということ

を挙げ、そのために、高校時代から「問い」を出すことに興味を持ち、とことん考え抜くという姿勢が大事であることや、大学には、目標を持った上で入学し、広く教養教育を学ぶ過程でその目標を常に相対化しながらその都度確認し、やりたいことを深めていくことが大事であるということをおっしゃった。

また、グローバル化の時代に生きる日本人にとって、より必要な力は発信能力、特に英語での発信能力であり、英語で自分の考えを正確に伝えることの重要性と、そのために外国留学の必要性を繰り返し話された。

そして最後に、夢を持つことは、若者の特権であるということ、夢の実現のために、すべてを犠牲にして邁進することができるのも若者の特権であるということを忘れず、日本全体・世界全体を睨んで自分にとって最良の大学、大学院選びをしてほしいというメッセージを我々にくださった。東大の最大の魅力は、お互い切磋琢磨できる仲間が多くいることだと佐藤先生はおっしゃった。もしかして東大とは、鶴丸のような所なのかもしれない。

第17回　校内弁論大会

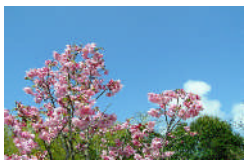
２月13日（月）の７限、１・２年生の代表６名による校内弁論大会が行われた。クラス審査や学年予選を経て選出された弁士が、それぞれの生活や経験に即して、主張したいことを論理的に訴えた。

審査の結果１位に選ばれた14Ｒの橋元彩さんは、「言葉の力」という演題で、自身の「鶴丸日記」の中から、日々の何気ない生活の中でやり取りされる言葉について考察し、人に夢や勇気や生きる希望を与える言葉の力に触れた自身の感動を、独特の明るい口調で語り上げた。２位の山下きりのさん（23Ｒ）は、『捨てる』ことと題して、人生選択における自身の感覚を研ぎ澄ますこと、自分を持つことの大切さを表現し、３位の飛松利菜さん（27Ｒ）は、「後悔せずに生きるために」という題で、努力の大切さを説き、偶然のきっかけが訪れるのをただ待つのではなく、つねに今この瞬間を能動的に行動する姿勢が大事だということを論じて、聴衆の共感を得ていた。

自己の思索を論理的な言葉に置き換えて、他者に訴えるということは、困難なことであり、何より勇気のいることであるが、今回の弁論大会によって、同じ高校生が建設的な意見を堂々と表明している姿を見て、自己表現の勇気を得たのではないだろうか。多くの生徒が、相手の考えをしっかりと理解して、自分の考えも正確に伝えることができる良好なコミュニケーション能力を身につけ、今回学んだことを、今後の人生に生かしてもらいたい。

大学入試 個別学力試験

２月25日（土）～26日（日）に、国公立大学の個別学力試験前期日程が行われた。高い志と強い意志を持って懸命に努力してきた３年生。桜の花が咲き始める頃、皆の笑顔が見られることを祈って、最後まで応援したい。

第63回卒業式

明日、第63回卒業式が行われる。学舎での最後の校歌を歌い、それぞれの地へ旅立つ３年生。「学ぶものをゝしく直く」、新たな世界でひたすらに己を彫むことを願って。卒業おめでとう。